

## 試験研究成果普及情報

部門	養豚	対象	普及
課題名：三元交雑豚WLDの産肉性に及ぼす止め雄系統の影響			
<p>[要約] 系統豚の効率的利用を図るため「ボウソウW」と「ボウソウL3」を交配したF1種雌豚（WL）にD種としてユメサクラ、シモフリレッド、サイボクの3系統を組合せ交配した三元交雑豚WLDの産肉性並びに肉質について比較したところ、ユメサクラの交配が発育成績も良く、上物率も高い傾向にあり良好な組合せである。</p>			
フリーワード：ボウソウW、WLD、組合せ、産肉性			
実施機関名 畜産総合研究センター生産技術部養豚養鶏研究室 実施期間 2005年度～2006年度			

### [目的及び背景]

本県では大ヨークシャー種の純粋種資源が少なく、その資源確保と、より安定した三元交配の肉豚生産を図ることを目的に、平成6年から大ヨークシャー種の系統造成に着手し、平成13年に系統豚「ボウソウW」として認定され、平成16年にランドレース種の系統豚として「ボウソウL3」が認定されたところである。そこで、系統豚の効率的利用を図るため「ボウソウW」と「ボウソウL3」を交配したF1種雌豚（WL）を作出し、デュロック種としてユメサクラ、シモフリレッド、サイボクの3系統を組合せ交配し、生産された三元交雑豚WLDの産肉性並びに肉質について比較した。

### [成果内容]

- 1 発育成績は、30kg並びに110kg到達日齢、1日平均増体量で組合せ間に有意な差が認められ、WL×ユメサクラの組合せが良好な成績である。（表1）
- 2 と体成績は、WL×サイボクの組合せが背脂肪厚、ランジル部脂肪厚ともに薄くなる傾向にあり、ロース断面積は他の組合せと比較し大きく有意な差が認められた。（表2）
- 3 枝肉の格付けによる上物率は、WL×ユメサクラの組合せが76.5%と最も高く、シモフリレッドが56.7%、サイボクが50.0%であり、ユメサクラの組合せが良好な成績である。（図1）
- 4 肉質成績はWL×サイボクの組合せが、加熱損失が少なく、伸展率、加圧保水力が高い理化学的特性を示していた。（表3）

### [留意事項]

- 1 三元交雑豚の肥育は、30～110kgまで全期間、新豚産肉能力検定用飼料（TDN：74.5%以上、CP：14.5%以上）を不断給餌している。
- 2 系統豚ボウソウL3、ボウソウWの利用農家での活用が期待できる。

### [普及対象地域]

県下全域

### [行政上の措置]

### [普及状況]

[ 成果の概要 ]

表1 発育成績

組合せ		ユメサクラ	シモフリレッド	サイボク
調査頭数	(頭)	34 (去勢雄13、雌21)	30 (去勢雄19、雌11)	42 (去勢雄22、雌20)
30kg到達日齢	(日)	67.0 a	73.6 b	70.6 c
検定開始体重	(Kg)	32.2	31.2	31.8
110Kg到達日齢	(日)	162.9 a	170.7 b	172.6 b
検定終了体重	(Kg)	112.5	112.0	112.3
1日平均増体量(30kg～)	(g)	844.1 a	836.2 a	796.0 b

注) 平均値、異符号間に有意差(p<0.05)

表2 と体成績

組合せ		ユメサクラ	シモフリレッド	サイボク
冷と体重	(Kg)	74.5	73.4	74.6
と体長 I	(cm)	94.5 a	94.8	95.8 b
背腰長 II	(cm)	69.6	69.8	69.5
と体幅	(cm)	33.7	33.8	33.7
背脂肪(カタ)	(cm)	3.6	3.7 a	3.5 b
背脂肪(セ)	(cm)	1.8	1.9 a	1.7 b
背脂肪(コシ)	(cm)	2.7	2.6	2.5
3部位平均	(cm)	2.7	2.8 a	2.6 b
ランジル前	(cm)	2.7 a	2.8 a	2.4 b
ランジル中	(cm)	1.8	1.8	1.6
ランジル後	(cm)	2.6	2.7	2.6
カタ割合	(%)	29.9	29.5	30.9
ロース・バラ割合	(%)	40.6	40.9 a	40.0 b
ハム割合	(%)	29.5	29.5	29.1
ロース断面積	(cm <sup>2</sup> )	21.8 a	21.6 a	24.0 b

注) 平均値、異符号間に有意差(p<0.05)

ロース断面積: 4、5胸椎間

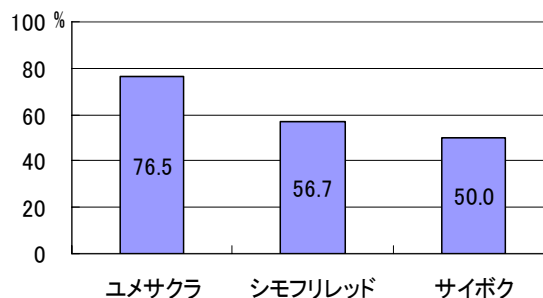


図1 枝肉の上物率

表3 肉質成績

組合せ		ユメサクラ	シモフリレッド	サイボク
頭数		12 (去勢雄)	19 (去勢雄)	22 (去勢雄)
水分含量	(%)	73.6	73.3	73.3
加熱損失	(%)	24.0 a	24.8 a	21.7 b
伸展率	(cm <sup>2</sup> /g)	30.5 a	30.1 a	34.0 b
加圧保水力	(%)	80.8 a	78.4 b	88.4 c
圧搾肉汁率	(%)	50.3	51.5 a	49.7 b

注) 平均値、異符号間に有意差(p<0.05)

[ 発表及び関連文献 ]

平成18年度試験研究成果発表会資料 (養豚部門)  
千葉県畜産総合研究センター研究報告第6号、2006年

[ その他 ]